



やままる実行委員会の皆さん

特集

対談 「子どもたちに『第三の居場所』を」

一般社団法人 terra 代表理事

とまり木つくる会 代表

工藤 美季 氏 × 菅原 晴美 氏

経験者に聞く！ ～地域活動はじめての一步～

やままる実行委員会 代表

増田 健太郎 氏

○ 若者サポーター

○ スキマ時間の過ごし方 やまがたおすすめコワーキングスペース情報

若者向けの元気応援窓口

若者支援コンシェルジュ

では、
こんなことをしています。

若者支援コンシェルジュは、山形県に在住または所縁のある若者の地域活動を応援する事業です。毎日の活動での思い、不安や戸惑い、新たな事業をスタートしたいけど分からないことがある……など、活動には課題がつきもの。一人でも多くの人と課題を共有することで、解決の糸口が見つかる可能性があります。

なんでも相談窓口

地域活動に関するご相談を、電話や SNS 等で受け付けています。お気軽にご連絡ください。

☎ **080-4732-3804** (平日 9 時～ 19 時)

若者サポーター

地域活動の「困った」を“ちょっと先輩”の若者サポーターと一緒に考えます。詳細は 7 ページをご覧ください。

若者の交流の場づくり

テーマを決めて気兼ねなく語り合えるイベントを、年 6 回程度開催しています。ノウハウの共有やゲストの体験談を聞くといった学びのほか、同じような志を持った仲間と出会うきっかけにもなります。



情報発信

地域活動に役立つ支援制度情報や、県内で開催されるイベント情報、若者の活躍の紹介などをさまざまなメディアで発信しています。

- ウェブサイト「やまがたおこしいネット」
- 地域活動情報紙「WA-CHA」
- メールマガジン
- 各種 SNS



check!



@wakamonoshien

いろいろな情報が詰まっています！

「やまがたおこしいネット」

<https://yamagata-okoshiai.net/>



若者支援コンシェルジュ

メールマガジン

毎月 5 日配信中！

若者支援コンシェルジュ事務局

〒 990-0832 山形県山形市城西町 5 丁目 29-19 (AISOHO 株式会社内)

TEL 080-4732-3804 (平日 9 ~ 19 時) FAX 023-673-0703

令和 5 年度若者支援コンシェルジュ事業

山形県しあわせ子育て応援部多様性・女性若者活躍課

今号の表紙

「やままる実行委員会」のみなさん

東根市・村山市をメインにマルシェを開催し、町の賑わいをつくる実行委員会。表紙の写真は 5 月 28 日に村山市の飯葉プラザで開催した「ぶらまる」の様子です。毎回異なる施設や学校などとコラボレーションし、場所ごとにマルシェの名前を変えるスタイルをとっています。「〇〇まる」マルシェに是非足を運んでみてください。

▼代表へのインタビューを掲載しています。(6 ページ)



多様性の時代、子どもたちにもさまざまな選択肢が必要になってきています。今回は、子どもたちや保護者の居場所づくりをおこなう、「一般社団法人 terra」（天童市）の工藤美季さんと、「とまり木つくる会」（鶴岡市）の菅原晴美さんに、子どもを取り巻く環境と居場所づくりの必要性について伺いました。



とまり木つくる会 代表
菅原 晴美 氏

本業と子育ての傍ら、2019年から子どもの発達障がいについて安心して話せる「とまり木 SALON」を開催している。鶴岡市在住。若者サポーター。



一般社団法人 terra 代表理事
工藤 美季 氏

元小学校教諭。型にはまらない子どもへの教育と支援を目指し、2022年にフルイドスクールや相談事業を開始。ホワイトボードミーティング®講師。天童市在住。若者サポーター。

誰もが受け入れられる、「やさしい」社会をつくりたい

工藤 教師を退職した後、個人事業でファシリテーション研修等をしていましたが、次第に子どもを取り巻く環境づくりを改善したいと思うようになり、令和4年10月に一般社団法人 terra（テラ）を立ち上げて「フルイドスクール（フリースクール）」を始めました。令和5年2月にクラウドファンディングに挑戦して成功し、居場所の整備などを進めているところです。

菅原 私はボランティア団体「とまり木つくる会」を運営しています。私を含め、「発達障がいのお子さんを育てる親同士で話ができる場所を作りたい」というのが、サロンを始めたきっかけです。令和元年に初めてサロンを開催し、翌年の5月に団体を設立。令和4年には「山形市で同じような活動をしたい」という方から連絡を頂いて、山形サロンも開始しました。

不登校や発達障がいって、悪いことなの？

工藤 教員時代は、支援学級担任も経験しました。「支援学級の子」と、特別にみられることで親も苦しんでいました。不登校の親も同じですよ。

菅原 我が家も三人の子全員が発達障がいと診断されていますが、私はそれをオープンにしています。でも、自分

の子が発達障がいと診断されたということを受容しきれない家庭もあるんですよ。やっぱり「親が悪い」とか、「子どもが育たないのは親の責任」という風潮があったから、余計に。上の子二人は学校に行っていないんですけど、不登校に関しても同じですね。

工藤 私、教員時代は不登校の子の親に「学校に連れてきてください」と何度も言っていましたけど、今思うと、ご両親に申し訳なかったなと思って思います。

菅原 うちも担任の先生に言われましたね。そもそも、「不登校」って症状（結果）じゃないですか。症状の原因がわからないのか、発達特性なのか、体調不良なのか、原因によって対処が違わずなのに、一律で「不登校」とされてしまうんですよ。

工藤 昔は「登校拒否」と言っていた

んだけどね。実際、この名称のほうがしっくりくると私は感じているんですよ。とはいえ、学校は「来なくていい」とは言えないから、せめて私のような民間の団体が、「学校に行くのがしんどい時、ひと休みする場所があるよ」というのを作っていきたいですね。

お互いを承認しあえる「場所」

菅原 サロンを始めた目的が二つあって、一つ目は「親同士が共感できる場所をつくる」ということ。二つ目は、「発達障がいに対する社会理解を広める」ということです。極端に挨拶が苦手だとか、一般的に理解しにくい行動をとることがあっても、今の子どもたちが社会で働く頃には、もう少し受け入れる体制が整っている世の中になってほしいという想いがあります。その前段階として、親同士が話す場所がないと相談先が分からない。だから、共感の場所であり、情報提供をする場所が必要なんです。

工藤 わかります。保護者向けもだし、先生向けもそう。誰だって、お互いに承認しあえる場所が必要なんだと思います。私は子どもが自分で学校に行く日、家にいる日、フリースクールに行く日を選べればいいなと思っていて、そのためにうちは週2〜3日のコース



にしています。まだまだ利用者は少ないですけど。

菅原 私の場合はボランティアだし、みんな仕事をしながらだから日数も限られるし。今は曜日で分けて、鶴岡市で金・土に一回ずつ、山形市では不定期に開催していますが、親としては「相談するほどの問題じゃないだろう」という感覚もあって、すごくハードルが高いんだと思います。「勇気を出してきました」という方もたくさんいますし。それから、「母親が悪い」という風潮。これでお母さんの自尊心が下がってしまうんですよ。

工藤 おじいちゃん、おばあちゃんやパートナーの理解も大事ですよ。一緒に来てくれるのは、やっぱりお母さんが多いんです。でも、一番重要なのは「子どもが来たいと思っているか」。フリースクールや支援施設は県内でも

素敵な場所がいっぱいあるのに、子どもの心が冷え切ってしまったっていると届かず、誰も来ない場所になってしまっているんですよ。

菅原 いくら親が連れて行きたいと言っても、行政が素晴らしい活動だと言っても、肝心の子どもが行きたがらないと成り立たない事業ですよ。私たちも長く活動を続けたいので、無理をしないことが大事だと思います。

工藤 そうですね、だからこそ、子どもたちと一緒に、親も私たちも楽しまない。楽しい場所だと思ってもらうことが大事ですよ。

菅原 私も楽しんで活動しています！企画を考えることが好きなので、向いているんだと思います。細かくて難しい部分は、得意な人にしてもらって（笑）。



◀とまり木サロンの様子

どんな子にも「やさしい」社会に

菅原 特性のある子って難しく、些細な事で気分が変わったりするから、その状態を親がどこまで受容できるか、という問題もあって。親自身「もし宿題ができなくても、まあいいか」ぐらいにゴールのレベルをもう少し下げてもらえたら、特性のある子も生きやすいんじゃないかな。騒がしい子で多少うるさいなと感じても、その子なりにきつと原因があるんだから仕方ないじゃないですか。そういう意味で、周りももうちょっとやさしい社会になって欲しいです。

工藤 子どもはうるさくて当たり前だからね。特性のあるお子さんでもゆっくり成長していきけるんです。この間、うちに通っている人見知りをする子がお客さんに挨拶していて。小さな変化なんだけど、嬉しかったですね。お母さんも喜んでくれました。



▲ terra で開催した「心と身体を整えるお灸学習」

菅原 変化に気がついてもらえるのって、保護者からすれば、めっちゃくちゃ嬉しいことですよ。

工藤 あと、保護者面談もしているんだけど、不登校の子を持つお母さんに「お母さんがやりたいこともしていいんだよ」ってお話してるんです。この間、映画を観に行きたいと言って実際に行ったらお母さんが、報告と一緒に自分をほめてあげたい」って言ってくれました。

菅原 自分をほめるメンタルが素晴らしい！ 自分のことをするのって罪悪感を感じる時もあるから、ほめたいと思えたのは工藤さんの働きかけのおかげですね。

工藤 子どもは行きたくなくて学校に行っていないわけだから、お母さんが無理に付き合わなくていいと思うんですよ。お母さんも自分の時間を作らないと、疲れちゃう。

菅原 子どもも親も先生も疲れてますよね。だから、「来てよかった」とか「勇気出して良かった」って言ってもらえると、とても嬉しいですよ。

これからの目標

工藤 目標は、不登校だと言われる子がこれ以上増えないこと。そのためにできることは精一杯やっていきたい

し、いずれはどこに学びに行くかを子ども自身が選べるような環境になっただけいいなと思います。

菅原 私はやっぱり、細く・長く、かな。三年やってみて、少しずつ認知が広がっていることを感じられるようになりまし。あとは、自分を責めるお母さんが一人でも少なくなればいいな。そのためにも止まっちゃいけないと思っっています。

若者の皆さんへメッセージ

菅原 難しく考えずにやってみるのがいいんじゃないかな。多分「やりたい」と思っっていうことは、気持ちのベクトルはその先を向いていると思うので、あとは一歩を踏み出すだけだと思います。イベントなら、日付を設定してSNSで投稿すれば、一気に拡散する時代ですから。機を逃さずに一歩を踏み出してみて、駄目ならやめたらいいんですよ。

工藤 居場所づくりって、場所がないとできないと思われがちだけど、私は初めは自宅でした。だから場所ではない団体もあるし。だから場所をハードルと考えず、あとは「子どもに何かしてあげる」という感覚ではなく、一緒に楽しむスタンスのほうがいいかなと思います。

▶ イベント情報

みんながたのしめるラボ

日時 2023年7月29日(土)
13:00 ~ 16:00
会場 旧栄小学校内
(鶴岡市播磨字若松 51-1)



子づれのお出かけ、楽しめてます？
無理してません？ 疲れてませんか？
ここでは、大人も子どもも楽しめます！
こなたでもどうぞ。
デジリハ体験会やカウンセリング、レモネードスタンドプロジェクトなど親子で楽しめる催しを予定しています。
※上履きをご持参ください。予約不要。

terra サマーフェスティバル

日時 2023年7月31日(月)
~ 8月2日(水)
会場 一般社団法人 terra
(天童市東本町
3丁目1-15)



<プログラム>
7/31 PM 体と心を整えるお灸教室
8/1 AM 英語ってすごくシンプル♪
を体感しちゃおう！
8/1 PM はじめてのきもの
8/2 AM 「いえ」ってなに？
ご参加をお待ちしています！



一般社団法人 terra
(ウェブサイト)
一人ひとりの可能性が未来へ伸びていくように、多様な学びの場を提案します。

<https://terra1017.net/>



とまり木つくる会
(ウェブサイト)
子どもの発達障がいについて、安心して話せる場所を作っています。

<https://tomarigalson.wixsite.com/tomarigalson>

profile

県外の大学を卒業後、Uターンして生花店に約8年勤務。30歳で「店舗をもたない花屋」Heplan（アイリープラン）を創業する。マルシェに出店しているうちに自分でも開催したいと思うようになり、令和4年にマルシェ企画運営団体「やままる実行委員会」を立ち上げる。
「今は日によって花屋だったりイベントだったりサイクリカル業だったり、いろんな事をしています」



やままる実行委員会
代表
増田 健太郎さん

地元を元気にしたい、と村山市を中心にマルシェを開催している「やままる実行委員会」の増田健太郎さんにお話を伺いました。



「村山市から県民を巻き込んだ文化祭のような楽しいマルシェを、みんなで作り上げたい」

文化祭のような、みんなで作り上げるマルシェ

本番に向けて頑張って作り上げていく時間の楽しさ、ワクワク感。みんなで作り上げていく一致団結する盛り上がりがまさに「文化祭」のようで、そのフレーズを使っているそうです。

高校時代の恩師が校長を務める、村山産業高校で「ムラサンキタマチマルシェ」を実現したのは、画期的な取り組みでした。出店を通して生徒の社会勉強にもなり、一般の方が普段接点のない校長先生方と気軽に話せる面白い企画も行いました。斬新なマルシェで地域が盛り上がりました。

つながりを生むタイアップ

企業や行政、学校などとタイアップすることが「やままる」のこだわりです。

地域を盛り上げたい。人と人との繋がりを二重三重の力で作り出したい、という思いは、<タイアップすることで企画段階からいろんな人との繋がりと協力ができる><会場のお店や施設も盛り上がる>という相乗効果を生みます。また出店者は女性が多く、マルシェが一步踏み出す場となり、女性の起業支援にもなっているそう。



▲yamagataglamで開催した「さくまる」の様子

あえて準備万端にしない「作戦」でみんなを巻き込む

今年2月に開催した「ゆきまる」（村山市とタイアップした雪まつり）は、準備段階からみんなで関わられるような会場作りで重点を置きました。会場設営の「かまくらや雪灯籠作り」をイベントにする発想で、当日来ることができない人も参加できるように。「あえて準備万端に進めないことで、地域の人や行政・企業の人が大勢協力してくれました。皆が“自分が作ったマルシェ”だと自分ごととしての愛着を持てるようなマルシェを設計していきたいです」と増田さんは話します。

マルシェを開催するまで

花屋の仕事でマルシェに出店していた時に、村山市でのマルシェがあまりないことに気づき、「地元で開催したい!」と思うように。実行委員会を立ち上げ、有志数人で小規模なものから始めました。

令和4年3月「お米のめぐみ 穂たる」でのミニマルシェを皮切りに、4月「さくまる」10月「ムラサンキタマチマルシェ」、令和5年2月「ゆきまる」など今年の春まで約10回開催。評判が良く、複数回開催している会場もあります。

今秋LinkMURAYAMAでイベントを開催予定です。“文化祭のようなお祭りをしたい”という思いを、自分の母校の跡地でもある場所で実現できるのは感慨深い。いろんな企画を練っているので、ぜひ皆さんに来てほしいです。

▼最新情報はInstagramをチェック!



増田さんからのメッセージ
まず人に会うこと！ 自分がやりたいことをすでにやっている人がいるなら、会いに行く。話ができなくても、活動しているところを見るだけでもいいし、オンラインで連絡をとって繋がる。そういう人がいなければ、何かの分野で頑張っていて結果を出している人と話をしましょう。
世の中を知る事ができる本を読んだり、学校では学べない、社会人になってからのさまざまな勉強をしたりすることも大切。じっとしていても、何も始まらないので、まずは一步踏み出しましょう！

▶販路ブラザーで開催した「からまる」は屋内外の両方を使用





#知りたいことがある #相談したいことがある

無料

そんな
ときこそ

わかもの 若者サポーター！

若者サポーターは若者の活動を応援するため、相談内容に応じた現地指導をおこなう
“活動の助っ人”的な役割です。



Comic. 神村侑

利用者の声

- 何かを始めたい時や、何か事業を行う際に専門的なアドバイスがいただけるので、ぜひ活用をお勧めします。
- 先ゆく先輩の話聞くことができ、疑問点のほかにもいろいろな視点を持つことができ、とても有意義な時間でした。
- 個人事業主として活動してみたいけど、どうやって始めたら良いかわからない方には、オススメします。
- 自分の得意な分野を丁寧に教えてもらえるので、団体にとっても自分自身にとってもプラスになり、ステップアップできます！

実施期間：令和6年3月31日まで（受付終了は3月10日）※予定数になり次第終了になります

利用対象：・山形県内で地域を元気にするための活動をしている（これから始めようとする）

高校生～40歳位の団体または個人

・山形県内へ移住を検討している40歳までの個人

・山形県内の教育機関（サポート受益者が高校生～40歳位であること）

若者のみなさんの地域活動を応援しています！

お問い合わせは電話もしくは「おこしあいネット」へ

☎ 080-4732-3804

スキマ時間の過ごし方

やまがたおすすめ

コワーキングスペース情報



presented by 新しい働き方コンソーシアム

▲県内のコワーキングスペースを
オンラインで常時接続しています。

酒田市産業振興まちづくりセンター サンロク

〒 998-0044 酒田市中町2丁目5番10号

☎ 0234-26-6066

仕事の打合せ、作業、自習など、コワーキングスペースとして自由に利用可能。起業、新たな製品・サービス、地域課題解決を模索する人たちの出会いの場でもあり、スタッフが利用者の領域を越えた連携・交流、補助金など資金獲得をサポートします。



Link MURAYAMA

〒 995-0032 山形県村山市榑岡荒町二丁目1番1号

☎ 0237-48-8212

仕事や打合せに使えるオープンスペース、イベント・ワークショップ・物販などに使える大小様々な貸しスペースがあります。公益目的の催事を使う場合には使用料の免除制度も。チャレンジの拠点としてぜひご利用ください！



スタジオ八百萬

〒 992-0046 山形県米沢市信夫町 3-1

☎ 0238-20-6430

「つながりが人と暮らしを豊かにする。」

スタジオ八百萬は、会社員、フリーランス、経営者、主婦など、様々な人が活用するワークスペースです。そして、ワーク=仕事とは限らず、すごし方も様々。ちょっとした息抜きが豊かな時間になるかも知れません。



【編集後記】

今号はちょっと深めのお話になりました。ご協力いただいたみなさんありがとうございます！
(かいな)

今年は県内各地で興味をそそるイベントがいっぱい。行きたいものばかりで自分の術を身につけたいです。
(かいはん)

様々な方が地域を盛り上げようとしていらっしゃる姿に私もピンポイント刺激を受けて、一歩踏み出そうかと思う初夏です。
(しばみ)

本格稼働しているところが多く見受けられて、こちらまで元気を貰えますね。今年は様々なことを経験したい！
(のん)

【Special Thanks】
イラストレーター…神村侑
(かみむらゆう)

山形市出身。温かく可愛いイラストと漫画を描いています。最近の癒しはパンプを聴く事とぬいぐるみに埋まる事。



▲作品はこちらをチェック！

【制作・発行】

若者支援コンシェルジュ事務局

〒 990-0832

山形県山形市城西町五丁目29-19

(AISOHO株式会社)

TEL 080-4732-3804

FAX 023-673-0703

【委託元】

山形県しあわせ子育て応援部

多様性・女性若者活躍課